

## 4-5 施設・設備等

### A群・大学・学部等の教育研究目的を実現するための施設・設備等諸条件の整備状況の適切性

「校地、校舎、講義室・演習室等の面積」「学部・大学院研究科ごとの講義室・演習室等の面積・規模一覧」「学部の学生用実験・実習室の面積・規模一覧」「規模別講義室、演習室使用状況一覧」に記載されている講義室等を、本学部も使用している（「大学基礎データ」表36・37・38・40）。

学部としては青山キャンパスの11号館3階には、2003年に**地理情報システム室（GISラボ）**を開設した。ここでは、「**地理・地域部門**」の**教員の研究・教育**に使用されるのみならず、情報処理室としての機能も果たしうるため、本学部教員が幅広く利用可能である。2003年度にはGISに関する講義を「GIS入門」として開講し、授業の配置されていない時間には本学部の学生に開放し、演習での活用など自由にGISを実践できる環境を提供している。将来的には、遠隔授業やテレビ会議システムのサテライトとしての利用も視野に入るものとして期待されている。この他、**情報処理学習施設面**では、青山キャン

ンパスの教育研究の利用目的で構築したシステムとして、学部ホームページ、経済情報データベースのホームページがある。今後の活用が大いに期待される場所である。経済情報データベースは、青山学院所属の者は、青山キャンパスの学部ネットワーク外の相模原キャンパスや学外からのアクセスも可能である。

「大学基礎データ」からわかるように、大学設置基準に見合う校地・校舎面積を満たし、それ相応の施設がおかれている。しかし、青山キャンパスでは、学生が自由に利用できる演習室等の施設が足りないのが現状である。演習には、他の授業で使用している教室を併用していて、演習室として専用できる十分な施設をもたない。2001年に完成したガウチャー・メモリアル・ホールの3・4階には演習室が設置されたものの、依然として十分なキャパシティを提供するには至っていない。そのため、ゼミの自主的な活動を恒常的に行い交流する場がなく、ゼミならびに本学部学生としての帰属意識を希薄にさせる一因ともなっている。施設の充実は、一学部で実現しうるものではないが、問題の指摘を続けることは、問題解決への一歩となるのではないだろうか。

**学部附置研究施設である経済研究所**は、経済学とその関連科目にかかわる諸問題の調査・研究を行ってきた。他大学の紀要、月報などの雑誌を主体に資料を収集・所蔵し、教員ならびに大学院生、学部学生が自由に利用している。青山学院大学総合研究所の一環であった経済研究センターの廃止に伴い、2004年度経済研究調査室から、**経済研究所**として発展させた。これまでの資料室・書庫と事務兼会議室の2部屋からなる学会室と調査室を広げ、受付兼エントランスホール、ライブラリー、プレゼンテーションルーム、プロジェクトルーム、オフィス兼ワーキングルーム、コピー・作業室及びミーティングルームからなる独立した部屋に改装した。プレゼンテーションルーム及びプロジェクトルームには、インターネット端末、IT対応機器、外線電話、AV機器、スクリーン、プロジェクタ等々の新機材を導入し、セミナー・研究会の開催をはじめ学部諸委員会会議にも利用され、**幅広い研究及び教育を行う施設として十分に機能している**。インターネットなどは院生及び学部学生も利用可能である。

経済研究所は教育・研究上、重要な機能を果たしている。ここで収蔵している図書は教員の研究テーマに密着したもの、最新のもの整えられており、教員、学生、大学院生に広く活用されている。ただし、社会科学系学部にとって共通して必要とされる学術誌は、大学図書館及び他学部書架に配置されている資料との重複を回避するため、2003年より、図書館の「重複図書受入基準」適用により、学部配置が認められなくなった。これらの資料については、図書館に専用のスペースが設けられたが、総合資料室としてのいっそうの充実が求められる。